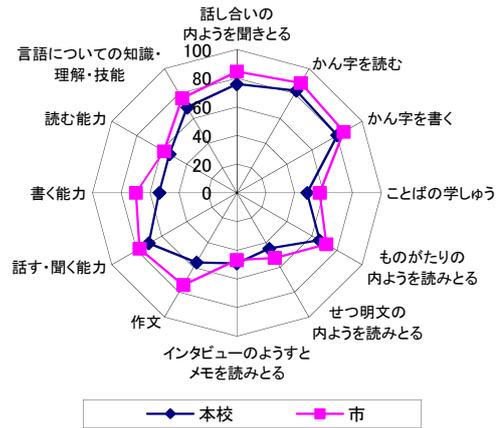


宇都宮市立宮の原小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	75.9	84.6
	かん字を読む	82.3	88.6
	かん字を書く	80.2	85.4
	ことばの学しゅう	48.7	57.3
	ものがたりの内ようを読みとる	66.1	71.5
	せつ明文の内ようを読みとる	44.8	52.5
	インタビューのようすとメモを読みとる	49.1	46.8
	作文	56.0	74.2
観点別	話す・聞く能力	70.4	77.8
	書く能力	53.8	69.9
	読む能力	53.9	58.2
	言語についての知識・理解・技能	68.8	76.0



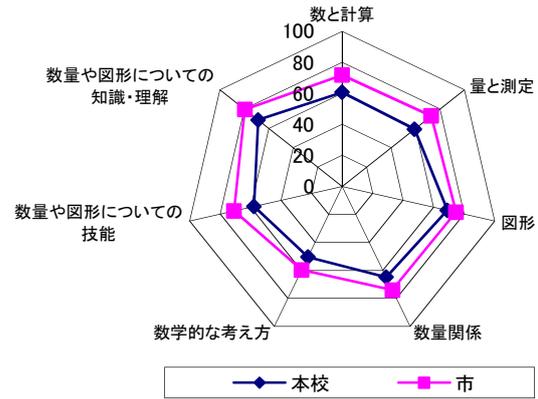
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	・平均正答率は、75.9%と市の平均を下回っている状況である。特に、話を聞きながらメモすることを苦手としている児童が多く、メモをしている間に話が進んでいき、正確に聞き取ることができていない。	・メモの取り方に大きく個人差があることから、普通の授業の中からメモを取るような活動を取り入れていくことが必要である。その中で、ただメモを取るのではなく、自分に必要な情報を取捨選択して記述することができるように練習していくことができるようにしたい。
かん字	・「漢字を読む」ことに関しては、平均正答率が86.2%と市の平均を若干下回っているが、おおむね定着している様子が見て取れた。しかし、「漢字を書く」ことになると、平均正答率が69.6%となり、市の平均よりも12.9%下回っている状況である。	・漢字練習については、これまで授業の中や宿題等を用いながら定着を図ってきた。また、新出漢字についてはドリルや付属の小テストを用いてきた。これからは、3年生だけでなく2年生の復習などを同時に行いながら、さらなる定着を図っていきたい。
ことばの学しゅう	・平均正答率は、48.7%と市の平均を下回っている状況である。漢字の部首についてはある程度定着しているが、ローマ字のつづりや国語辞典の使い方についての定着が図られていないという結果だった。	・国語辞典は、国語の授業の中では新しい単元に入った際に、言葉の意味調べなどで使用してきた。しかし、意味が複数ある場合などに自分の必要な情報を見つけることを苦手としている児童が多いため、普通の授業の中から教師が意図をもって調べる言葉を選択していく。また、ローマ字については、ローマ字のドリルや総合の時間のパソコン操作などを利用しながら、さらなる定着を図っていく。
ものがたりの内ようを読みとる	・平均正答率は66.1%となっており、市の平均を5.4%下回る結果となった。特に、登場人物の気持ちを読み取ることはできているが、場面の様子を読み取ることについてが低い結果となった。	・読み取る力を身に付けるために、これまで以上に授業中の音読の機会を増やしていきたい。さらに、ただ声に出して読むだけでなく、場面の情景や登場人物の心情を想像しながら読むように指導することで読みが深まるようにしたい。
せつ明文の内ようを読みとる	・平均正答率は、44.8%と市の平均を3.7%下回っており、全領域の中で一番低い結果となった。物語文に比べると、文章の内容が難しくなっていることもあり、苦手とする児童が多かった。特に、「目的や必要に応じて文章を読み取る」問題の正答率が低くなっており、より一層の定着を図る必要がある。	・授業の中で、説明文を取り扱う際に形式段落や意味段落に番号を付けることで説明文の中で内容ごとにまとまりがあることを気付かせたい。さらに、その段落ごとに簡単な題名を付けることで、内容が分かりやすくなるように指導していく。また、指示語や接続詞に注目することで、文章全体のつながりについて考えるようにしたい。
インタビューのようすとメモを読みとる	・平均正答率は49.1%であり、市の平均を2.3%上回る結果となった。インタビュー形式の文章を読み、問題に答えていく内容である。特に、「読み取った情報の共通点や相違点をとらえる」問題の正答率が高く、定着している状況であった。	・ほかの領域と比べると、市の平均を上回っており、ある程度定着していると考えられる。よって、これまでに引き続き、授業での説明文を取り扱う際に、情報の共通点や相違点を探していく活動を行っていく。
作文	・平均正答率は56.0%となっており、市の平均(74.2%)とは全領域の中で最も差が出た領域である。内容を見てみると、「指定された字数内で書く」「二段落構成で書く」ことが低く、与えられた条件内で作文を書くことを苦手としているということが分かった。	・今まで、児童は与えられた条件下で作文を書く機会が少なく、今回の問題に対して、戸惑いを感じた児童が多く感じた。そこで、国語の授業を利用して、条件をつけた作文を書かせることで問題に慣れさせていきたい。最初は簡単な内容や条件から、徐々に難度を上げていながら定着を図りたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	60.7	71.8
	量と測定	59.2	72.8
	図形	69.0	74.7
	数量関係	64.8	74.1
観点別	数学的な考え方	50.4	59.7
	数量や図形についての技能	57.9	70.9
	数量や図形についての知識・理解	68.7	79.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>・平均正答率は60.7%と低い。特に、波及的繰り下がりの計算を苦手としている児童が多い。また、大きな数の位の仕組みを理解しているとはいえない。さらに、計算の仕方を数の仕組みを使って考えることが不十分である。</p>	<p>・4けた－4けたの繰り下がりの計算に誤答が多かった。たし算の正答率は高かったので繰り返し問題に取り組みせ、正確に解けるようにしていきたい。また、問題に応じて、ただ計算させるだけでなく、計算の意味や数の仕組みを利用した計算の考え方を説明させるなどしていきたい。</p>
量と測定	<p>・平均正答率は59.2%と最も低い。長さを比較する問題は概ねできていたが、時刻や時間を求める問題や道のりと距離を求める問題では正答率が低かった。</p>	<p>・日常生活において時刻や時間を求めるような場面を意図的に設定し、実際に時計を見て考えたり計算によってもとめたりする指導をしていく。また、道のりと距離の違いを正しく認識させ、プリントなどを用いて繰り返し指導していく。</p>
図形	<p>・平均正答率は69.0%である。直方体の見えない部分の辺を認識して答える問題の正答率が低かった。</p>	<p>・直方体の実物を実際に触らせたり、実物を見せたりしてイメージがわきやすくなるような指導をしていく。</p>
数量関係	<p>・平均正答率は69.6%である。□を使った式の意味を十分理解していないため、□を使った乗法の式に適した文章題を選ぶことが不十分である。</p>	<p>・文章問題をよく読んで問題の意味を理解させるとともに、線分図や絵を用いて□を表す数量をとらえさせたり、□を使った式のよさを実感させたりして指導をしていきたい。</p>